

完成式典で 苦労話続々

袋井・掛川市統合新病院

袋井市と掛川市の二つの市立病院を統合した新病院「中東遠総合医療センター」が掛川市菖蒲ヶ池に完



袋井・掛川両市の統合新病院の完成を祝う関係者

成し、21日、両市の関係者や地元医師会など約300人が出席して完成式典が開かれた。中東遠地域の2次医療を担う中核病院として、8階建て、ベッド数500床、医師数90人前後で5月1日に診療を始める。

式辞では、医師不足などから全国初とされる二つの市立病院の統合に至った苦労話が相次いだ。新病院建設協議会長を務めた佐古伊康・しずおか健康長寿財団理事長は「この計画はまともまらないといわれ、最後に建設場所を巡り、(二つの市で)紛糾した時は投げ出したくなった。難産の産婆役としては、市民のための病院という初心を忘れないで欲しい」とあいさつ。病院建設事務組合管理者の原田英之・袋井市長も「簡単に建設場所が決まらなかった。完成にこぎ着けたのは両市の英断だ」と振り返った。